

秦野市青少年指導員だより

発行 秦野市青少年指導員連絡協議会

編集 秦野市青少年指導員連絡協議会広報委員会

第47号



距離の近さを活かして

表丹沢野外活動センターを拠点とする体験キャンプを始め、各地区での趣向を凝らした祭りやイベントで、言わば青少年指導員のかき入れ時でもある夏休み。そこには、お兄さん・お姉さん役として子ども達を引っ張る中・高生ジュニアリーダーの活躍があります。

活躍するジュニアリーダー 中・高生を応援しています

青少年育成の現場で

私たち秦野市青少年指導員は、夏休みを中心に秦野市が実施する、いくつかの青少年交流事業（キャンプ）にスタッフとして参加しています。



開会式での会長挨拶

具体的には、集まった子ども達の心を開会式で解きほぐすことに始まり、続くゲームや野外活動への移行。夕食時には、火起こし・炊飯・調理に目を配った後は片付けの指導。キャンプファイヤーでは運営から翌朝の後片付けまで。

雨天時には竹とんぼやボールンアートといった工作指導もこなします。

ウォークラリーや早朝の散歩が予定されている場合は、下見も欠かしません。今年の「諏訪市・秦野市姉妹都市青少年交流キャンプ」では、秦野市子ども会の役員二名を含む七人で、実施一週間前に、スタート地点「風の吊り橋」から同じコースを歩き、チェックポイントの確認のほか、道筋に危険な箇所（蜂の巣も含め）はないか調べました。さらに、ヤマビル対策も万全を期しました。

全員が力を合わせて活動していますが、正直メンバーの高齢化は否めません。そんな中、活躍してくれているのが、若さ溢れるジュニアリーダー達です。以下に、その活動を紹介します。



心を解きほぐして

秦野市子ども会

ジュニアリーダー

相原 綾菜



私は秦野市子ども会ジュニアリーダーに約八年間所属しており、今は総括という立場で、後輩の中・高・大学生のジュニアリーダーと力を合わせて活動しています。

五月五日に中央運動公園陸上競技場で開かれる「子どもまつり」ではブルーシート指導。夏は「秦野・諏訪交流キャンプ」、子ども会の「六年生キャンプ」「五年生デイキャンプ」で大忙し。日常的には、ゲーム研修等で個々のスキルアップを図っています。

姉妹都市交流キャンプ

数あるキャンプの中でも力を入れているのは、毎年交互に開催される、国内姉妹友好都市である長野県諏訪市との交流キャンプです。昨年が諏訪市での開催だったので、今

年は秦野市表丹沢野外活動センターでの開催でした。

両市からの参加者、小中学生全五十九名を六班に分け、各班に一人ずつジュニアリーダーが付き、対応しました。あいにくの雨で、一日目のウォークラリーが中止になってしまったのは残念でしたが、夜のキャンプファイヤー、二日目の大磯海岸と、二日間のキャンプを楽しみました。

リーダーとしての自覚①

私がこの数年、この交流キャンプで心がけていることは二つあります。一つ目は、参加してくれた子どもが楽しかった！来年も参加したい！と感じてもらえるようなキャンプにすることです。



そのために、ゲームの進行では参加者の反応を第一にすること。また日常や地元では出来ない体験を提供すること。

そして両市の子ども達が友達になって帰るための声かけ役（架け橋）を心がけています。

リーダーとしての自覚②

二つ目はジュニアリーダーの後輩たちに成長してもらいうことです。そのために今年のキャンプでは、まだ経験の浅いメンバーに（初対面の参加者の心を解きほぐす）アイスブレイキングや、キャンプファイヤーでの（実際にゲーム進行を取り仕切る）アトラクションリーダーを担当してもらいました。

戸惑いながらも実際に経験することで、自分のゲーム進行の実力を知り、次への課題を見つけて欲しいと思ったからです。キャンプを終えた今、先輩たちの研修に対する意欲が以前より上がったような気がしています。彼らは「六年生キャンプ」時に参加していたメンバーも多く、私にとって妹・弟のような存在です。これからも協力して活動していきたいと思っています。交流キャンプでは、諏訪市のジュニアリーダーにも再会することができました。日頃離れてはいても思いを同じくするもの同士。お互いのスキ

ルアップを実感できたことは、何よりの励みになりました。



これからに向けて

毎年活動を重ねてきて、私にとつてジュニアリーダー活動は、いまや生活の一部といってもいいくらいの存在です。でもそんな私がこの活動を始めたきっかけは、実は一時期、学校があまり好きでなかったことがあり、そんな時に勧めてくれた「学校だけが居場所じゃない。こんな活動をしているところもあるんだよ」という母の言葉だったのです。本当に軽い気持ちからのスタートでした。

それが、今や総括という立場で、小・中学生をリードするだけでなく、ジュニアリーダーの後輩たちにまで気配りしているというのですから、笑ってしまいます。

見よう見まねで活動を重ねるうちに、ゲームのスキルとともに自分自身に自信が付き、また更にそれを生かせる場にチャレンジできるといふ楽しさの中で、少しずつ成長させてもらったのかなと思っています。でも、それ以上に嬉しかったのが一緒に頑張る仲間や先輩が出来たこと、何人もの子ども達と身近に関われたことです。

そういった思いを胸に、今年から神奈川県子連のシニアリーダーにも所属しました。県で学んだことを秦野市に持ち帰って生かしていきたいと思っています。



近年、各地で頻発している様々な自然災害。地域でまた個人で、日頃から防災意識を高めておくことの大切さが指摘されています。青少年指導員の、各地区での実践を紹介します。

親子防災体験キャンプ 南地区

九月三日(土)と四日(日)の二日間、南小学校体育館にて「親子防災体験キャンプ」を開催しました。

このキャンプは、南地区青少年指導員の独自事業として二〇〇九年に第一回目を開催し、七回目となる今年も、南小学校と南ヶ丘小学校の児童と保護者十六組五十一名が参加しました。今年が複数回目の参加となるリピーター家族もいらつしやる人気企画です。

企画の狙い

二〇一一年に発生した東日本大震災では約四十七万人、今年四月の熊本地震の本震直後には約十八万人が、避難所生活を余儀なくされました。

こうした避難所での生活は、子どもたちの心に大きなストレスを与えます。ある日突然

に災害に見舞われ、平時の生活の場である自宅を離れることになり、公民館や学校の体育館といったオープンなスペースで、両親以外の見知らぬ人たちと寝食を共にすることになるのです。

そこで本企画では「避難時でも子ども達の笑顔は大切なはず」をテーマに、子ども達の心のケアの必要性を学ぶことを目的の一つとしています。そこで活躍してくれるのが日頃から南地区で育成を図っている中・高生ジュニアリーダーたちです。

避難所での寝泊まり

実際の避難所で使用するパーティション(仕切り)を秦野市防災課からお借りし、体育館内に設置して避難所におけるオープンスペースでの寝泊まりを体験しました。



一面のパーティション

高さ一メートルに満たないパーティションで区切られた区画は、広さ二畳分程度。そこに段ボールや毛布を敷いての寝泊りです。立ち上がればすぐに隣と視線が合い、ちょっとした囁きさえ夜の体育館には響きます。

サブイバル法の習得

秦野市防災アドバイザーにご指導いただき、骨折の応急手当や止血方法、心肺蘇生法やAEDの使い方、災害用伝言ダイヤルの使い方などを学びました。あまり報道されていませんが、断水が続く避難所ではトイレも大きな問題となります。ブルーシートや段ボール箱を使った簡易トイレの設置方法も学びました。



心肺蘇生法の学習

また、夕食後には昔からの生活の知恵であるロープワークも指導していただきました。

被災時の食事はピザ作り

夕食の主食は、秦野市防災課提供のアルファ米。加えて薪を燃料にしたかまどを使って豚汁の炊き出しを実施しました。

また、参加の皆さんでピザを手作りし、段ボール製のオーブンを使って楽しみながら焼きたてを味わいました。

子ども達の交流

前述のジュニアリーダーが主体となった、子ども達との遊びの時間を設けました。内容は、バルーンアート等の工作、陣取り遊びやだるまさんが転んだといった体を動かすゲーム、そして就寝前の紙芝居の読み聞かせなどです。子ども達はすぐに溶け込み、飽きることなく様々な遊びを楽しんでいました。



大型紙芝居の読み聞かせ

企画終了後に例年行っているアンケートによると、参加した子ども達にとってはこのジュニアリーダーとの交流が、楽しかった思い出として強く印象に残っているようです。

これからも、こうした地域の様々な年代の子ども達がつながりを持ち合う機会を、継続的に作っていきたいと考えています。

ご参加・ご協力いただいたすべての方々にあらためて御礼申し上げます。

防災フォーラム参加 大根・鶴巻地区

十月一日(土) 東海大学湘南校舎にて第二回防災フォーラムが開かれました。参加して感じたのが事前の準備・心構えの重要性です。

昨今、大地震と呼ばれるものが頻発していますが、その際によく耳にする「まさかこの地で起きるとは」「今日起きるとは思ってもいなかった」という言葉。フォーラムの冒頭で、私たちが抱きかちなこのおかしな思い込みと先延ばしの考え方を、まず捨ててほしいと求められました。

また、人は突発的な出来事に落ち着いて対応できるのは10%で、多くの人が取り乱すか呆然と立ち尽くしてしまうということでした。

東日本大震災の時に、少なからぬ人が津波の前に足がすくんでしまっていたそうです。災害に遭遇した場合どのように行動するか、事前にシミュレーションしていれば、違った行動が取れていたのかも知れません。



フォーラム会場風景

同時に、被災時における近所との付き合いの重要性が指摘されました。自分一人では限界があります。向こう三軒両隣で取り組むと乗り越えられることも出てきます。

私たち指導員は、子どもも参加する行事に携わっています。だからこそ、いざというときに的確な行動ができる

よう、平日頃から準備しておくことの重要性をあらためて感じました。

危険予知トレーニング

研修活動委員会

台風で時化(しげ)た海に、泳ぎに行く人はいない。余程のものは別として、荒れた海の危険性を知っているからです。掌に載せた豆腐を切るときも同じです。包丁を引くことは絶対にならない。刃物は引くことで切れやすさが増すことを誰もが知っているからです。

このように、私たちは日常生活の様々な場面に潜む危険を、あらかじめ情報を手ずかることで回避し、またその正しい使い方を身につけることで克服しています。

私たち青少年指導員は、自治会や子供会、公民館が主催する地域行事に、レクリエーションゲームや工作指導等で参加するほか、市が実施する交流キャンプや野外活動に、スタッフとして協力しています。笑顔と歓声のうちに行われなければならないそれら行事は、一方で常に危険と隣り合わせです。とりわけ野外活

動においては、山や川、天候といった自然環境の難しさに加え、火気類や刃物など扱いに注意を必要とする道具も多く、さらにお預かりする子ども達の健康状態、集中力の有無が事故に直結するため、本当にあらゆる場面で細心の注意が要求されます。



上手く火が起こせた!

そこで研修活動委員会では、九月十七日(土)に表丹沢野外活動センターで、全指導員を対象に「野外活動における安全対策」と題する危険予知トレーニング(KYT)を行いました。

日常の子ども達に関わる行事のどこにどのような危険があり、安全を確保するにはどういった対策が必要か、実践活動も交えながら理解を深めました。

今後の指導員活動の充実と

安全に、繋がってほしいと願っています。

神奈川県

青少年指導員大会

十一月二十七日(日)、藤

沢市「藤沢市民会館 大ホール」で、第四十九回神奈川県青少年指導員大会が「きみの笑顔が未来をつくる」引き出そう!みんなの元気!」をテーマに開催されました。

今回は所属する湘南地域での開催ということで、本市からも五名の指導員が運営に協力しました。

藤沢市・愛川町の活動事例発表の他、現在大磯町の青少年指導員 浅野重人ラフティング日本代表チーム監督の講演「子どもの未来は大人次第!」くまずは大人が子どもの『希望』になる事」を拝聴しました。

また当日、長きにわたる指導員としての功績を讃えられ、甲斐和子氏(南地区・七期十三年・現会計)と高橋 豊氏(東地区・五期十年・前副会長)が優良指導員表彰を授賞されました。おめでとございます。



これからよろしく

編集後記

秦野市青少年指導員、だより第四十七号をお届けします。

私たち青少年指導員はこの紙面で紹介しましたように、様々な活動をしていきます。どうぞご声援下さい。

《広報委員》

瀬戸 英治(本町)

渡邊 哲幹(本町)

◎竹川伊佐子(南)

細越 徹哉(南)

内藤 聖樹(東)

相原 博(北)

田方 淳一(大・鶴)

堀尾 吉晴(大・鶴)

◎宮永 敏明(西・上)

吉田トシ子(西・上)

久保 光弘(本部)

◎委員長 ◎副委員長